

行政視察等報告書

令和5年6月19日

長野市議会議長 寺 沢 さゆり 様

報告者氏名（代表）
福祉環境委員会委員長 布 目 裕喜雄

この度、行政視察をいたしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察区分 福祉環境委員会行政視察
- 2 視察者氏名 布目裕喜雄 加藤英夫 若林祥 寺沢さゆり 阿部孝二
松田光平 西沢利一 倉野立人 小林秀子 小泉一真
- 3 随行者 書記 伊藤敏明
- 4 視察期間 令和5年5月15日（月） ～ 令和5年5月17日（水）
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
東京都日野市	5月15日（月） 午前10時30分から正午 まで	・プラスチック類ごみの一括回収について
奈良県奈良市	5月16日（火） 午後2時から午後4時 まで	・奈良市子どもセンターについて ・保育園における簡易ベッド（コットベッド）の 導入について
兵庫県尼崎市	5月17日（水） 午前10時から午前11時 30分まで	・ヤングケアラー支援及び子供の育ち支援セン ター（いくしあ）の総合的な支援体制について

6 調査概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
5/15 (月)	日野市	<p>【プラスチック類ごみの一括回収について】</p> <p>【概要】 日野市は東京都の西部に位置し、多摩川の流域に広がっている。周辺は多摩丘陵や多摩川の自然環境に囲まれており、自然の景観や公園や緑地が豊富。 交通の便が良く、甲州街道・川崎街道の二つの街道とJR中央線・京王線の二つの鉄道が走り、多摩モノレールも通っており都心部へのアクセスが良い。 かつては農業中心の宿場町で「多摩の米蔵」といわれていたが、昭和の初めからは大企業の誘致により自動車関連産業や物流業などが盛んになり工業都市としての一面もある。 また戦後は、多摩平など大規模団地の進出があり、首都圏のベッドタウンとして今日に至っている。商業施設やショッピングモールもあり、地域の商業拠点としても機能している。 日野市は「新選組のふるさと」としても知られている。副長・土方歳三や六番隊長・井上源三郎が生まれ育ったほか、彼らの活動を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷が残されており、5月には「ひの新選組まつり」も開催される。 日野市クリーンセンターは、1974年に開設され、日野市、小金井市、国分寺市のごみを処理している。 同センターは、焼却炉、プラスチック類資源化施設、汚泥再生施設の3つの施設で構成され、焼却炉ではごみを燃やして熱エネルギーを回収している。プラスチック類資源化施設では、プラスチックごみを分別し、リサイクルしている。汚泥再生施設では、固形物を脱水分離し助燃剤として再利用している。 またクリーンセンターは、ごみ処理だけでなく、環境教育にも力を入れている。クリーンセンター内には、環境学習館が併設されており、ごみ処理のしくみや環境問題について学ぶことができる。同時にクリーンセンターでは、ごみ減量や資源リサイクルのためのイベントや講座を開催しており、ごみ処理と環境教育の両面で、地域の環境保全に貢献している。</p> <p>【考察】 便利で快適な社会生活の副産物として生まれるゴミを、出来る限り有効に活用（再利用）していくことは、私たち人類に課せられた使命であると思う。 日野市では「ごみ改革」と銘打ち、ゴミ収集袋の有料化や個別収集などの“改革、を断行、今では全国有数の「ゴミ排出の少ない自治体」にランキングされるようにまでなった。大きな力を注ぐことにより、市民の意識改革にも結びつくものと感じる。</p> <p>製品プラスチック（固いプラ）もリサイクルゴミとして回収する方向になってきており、本市においてもその状況変化(新法施行)に則した対応が求められてきているのでは。 日野市でも今まで可燃ごみや不燃ごみとして出されたものを、リサイクルプラスチックごみとして分別することにより、プラごみが増加した一方で可燃ごみは劇的に減少。とても参考になる実例である。 2020年に「日野市プラスチックスマート宣言」を行い4Rでなく日</p>

<p>5/16 (火)</p>	<p>奈良市</p>	<p>野市独自の5R運動（Refuse断る、Reduce減量、Reuse何度も使う、Return返す、Recycle再生利用）を積極的に推進し、市民の啓蒙活動によるゴミ減量意識を醸成させることも大切である。同時にマイボトル、マイバッグ、マイストローの利用を促進しペットボトルなどの使い捨てプラスチック仕様を控えるよう、啓蒙することも大切である。</p> <p>一方、プラごみとして収集したものの選別作業は、ご苦労が多いようである。ある職員さんは「しゃもじ」にスプーン等を取り付け、実に手際よく選別を行なっていました。それぞれ工夫をしながら一心不乱に作業される職員の姿に接し、ゴミ行政に真摯に向き合う姿勢を見せていただき、感銘を受けました。</p> <p>またゴミの個別収集も興味深いものがあった。</p> <p>以前行われていたダストボックス方式は「24時間いつでも何でも出せる」市民にとっては便利な方法だった。一方、分別・資源化に不適當、設置場所周辺的生活環境が悪化、交通の支障になるなどの問題点があった。個別収集方式に変更後は、敷地内に出すことで、排出者が収集されるまで管理するようになり、ダストボックスと違って目につくので、分別も徹底されるようになったとのこと。特に資源物を個別収集することにより、重い新聞などを集積場所まで運ばなくてもとく、ゴミ捨てに苦労される高齢者にとっては、とても有益な方法ではある。</p> <p>ただ、平坦で住宅地が密集している日野市と違い、中山間地域が多く、家屋密度の低い本市においては問題が多く、実施は困難である。</p> <p>また、ゴミとして燃やしていたものが、製品の原料になっている点では素晴らしいが、財政的な観点では、行政に経費が掛かりすぎている。</p> <p>今後の流れではプラスチック新法ができ、日野市のようなプラスチック類の一括回収は必要な施策だが、経費をすべて市民が負担するのは難しい、やはりプラスチック類の製造メーカー等にも応分の負担をしていただき、リサイクルを進めるべきではないかと感じる。</p> <p>一方、ジモティスポットを作り、「容器包装お返し大作戦」と題して商店などでの容器梱包の改修に取り組んでいる。長野市のスーパーマーケットでも同様の取組を行うところもあるが、システム化することで効率よく回収も進められると感じる。環境パートナーシップ会議などで企業と市民連携で取り組んでみてはどうか。</p> <p>最後に、店舗にゴミ袋の機能を持たせたレジ袋を、使用する試みは興味深い。有料レジ袋を頒布しても、結局はゴミになることから、本市においてもゴミ袋を頒布する取り組みを行う店舗があると聴く。しかし体裁を考えると日野市が試行用に開発したレジ・ゴミ共用袋は、買い物袋としても違和感のないデザインで、買い物袋として使いやすい。</p> <p>また、ゴミ袋自体も、種類によって手触り感を変え、視覚障害者にも優しい仕様になっていることも、必要な施策だと感じた。</p> <p>【奈良市子どもセンターについて・保育園における簡易ベッド（コットベッド）の導入について】</p> <p>【概要】 奈良市は、奈良県の北部に位置する市。奈良県の県庁所在地及び</p>
---------------------	------------	---

最大の都市であり、中核市に指定されている。

また奈良時代に都が置かれたことから古都と呼ばれる。また京都に対して南都とも呼ばれた。

奈良市の面積は495.03平方キロメートルで、人口は約36万人。市の中心部は奈良盆地に位置し、北部は山地に、南部は吉野川に接している。

奈良市は、世界遺産「古都奈良の文化財」に登録されている東大寺や興福寺、春日大社などの寺社仏閣や、奈良公園の鹿で知られる観光都市である。また、奈良県立奈良図書館や奈良県立美術館などの文化施設や、奈良市役所や奈良県庁などの行政機関が集中する政治・行政の中心地でもある。

センターは、5年前から準備をし、令和4年4月に開設。きっかけは、虐待による重症事例が発生したことと、平成29年4月に改正児童福祉法が施行されたためである。子どもたちの遊びや学びの場として設立され、様々な活動やプログラムが提供されている。子どもの安心・安全を守るとともに、専門職等に子育て相談ができ、子育てを総合的に支援する施設である

センターには、室内や屋外に遊び場が設けられている。子どもたちは安全な環境で遊び、体を動かしたり、社交的なスキルを身につけることができる。また子育て支援のためのプログラムやイベントが開催されている。例えば、育児相談や子育て情報の提供、子育てに関する講座やワークショップなども行われることがある。

同時に知育や教育に関するプログラムも提供されている。例えば、絵画や工作、音楽やダンスなどのクラスや教室があり、子どもたちは自己表現や創造力を伸ばすことができる。

また子ども同士や親子が集まり、交流やコミュニケーションを図る場としても利用される。子ども同士の遊びや交流会、親子でのイベントや交流会などが開催されます。

コットベツトは、R2年12月に導入。新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金を活用している。

【考察】

奈良市子どもセンターについて

児童相談所を市で持ったことにより今まで県との見立ての違いや、支援の隙間が出来ていたものが、要保護児童対策連絡協議会と連携してスムーズに保護が出来るようになった。

その中で奈良市は複合施設の中に入れ込むことにより、敷居を低くして、多くの声を拾おうとしている。

しかし、児童相談所と警察等の外部との折衝や、児童相談所運用は、ある程度の児童福祉経験者が必要であると感じた。

さらに児童相談所は県や政令市などで行われているだけに、人的な資源や財源などの問題もある中、持続可能な制度として行っていくには大変な努力が必要である。始動時の専門職員の確保は出来たが、先々人事異動、配転が心配であると感じる。

また、受理件数はR3年に比べR4年は150件ほど増の1238件となった。警察からの通告が多いため、警察OBも雇用しているとのこと。その結果毎年定期的に第三者評価を受けることとしており、子ども自身がどう感じているかや、人権について最大限配慮していることは特出すべきことである。

奈良県弁護士会から弁護士を派遣する形でアドボケイト制をとり、子どもの意見を反映させる努力をしていることや、県の児童相談所とも合同の研修会や一時保護所の相互利用など連携してい

<p>5 / 17 (水)</p>	<p>尼崎市</p>	<p>ることも、参考にすべき事柄である。 所長が言われていたが「一度作ったらやめられない」という重い言葉に覚悟の強さを感じた。長野市も長野県から作って欲しいと要請があるようだが、児童相談所導入に関して、本市とすれば、必要なセンターであることには間違いないが、立地や面積、財政と職員数など、相当な準備期間と覚悟が必要であり、拙速にはいかない。しかし難しいことではあるが、奈良市が設置した経過は、本市の児童相談所を設置する際には参考にすべきである。 先ずは長野県との更なる連携強化を図っていく事をしていかなくてはと感じた。 また奈良市も本市同様、車で移動する市民が多いため、最初は別の場所に建てるつもりであったが、都市公園の中に奈良市子どもセンターを子育て支援施設と一体的に建てて、子育て中の親子の総合的な支援拠点としてメリットを生かしている。 車を運転できない親子のために、予約制ではあるが最寄りの駅まで迎えに行く通勤者も走らせ、便宜を図る姿勢も素晴らしい。</p> <p>保育園における簡易ベッド（コットベッド）の導入について コットベッドは床からの離隔が確保でき、衛生面でメリットがある。また、シーツ等の持ち帰りはあるが、ほこりが立たなくなったのもメリットである。 同時に重ねて収納することができるため、お昼寝の準備や収納も簡単かつ効率的にできる。 衛生面においては、三次元構造によりダニの繁殖も防ぐメリットがあり、一人一台の個別利用に伴い、感染性胃腸炎など、集団保育における様々な感染症の拡大を防止ができるとのことである。また、ネット構造のため、汗などで湿ってもすぐに乾き、おねしょなどで汚れても水洗いができ衛生的である。 関西において子育て支援ナンバー1に輝く実績により、職員の現状を変えていこうと言う気概が先進的な施策の実現につながっていると感じた。 保護者中には布団の持ち運びに負担を感じているのは現実だと思う。レンタルによる布団・ベッド提供を事業メニューとして用意し、個別に対応するのはよいことだとは思ふ。しかしその際には低所得者に、減免措置が必要であるとおもう。 課題として、収納場所が必要なことと買い換える時の予算確保である。 財源は有限であるので、どの分野に投入するかは個々の自治体の判断があつてよい。長野市がコットベッドを導入するかどうかは、必要性の認識の強度によると思う。 奈良市では、民間保育園に対しても「奈良市午睡用ベッド等購入費補助金」の制度を作つて全額補助ではないが対応している。また、使用済みオムツの持ち帰りは平成22年から廃止していることと、オムツのサブスクを試行中であることも参考になる。 本市においても、忙しい保護者の様々な子育ての負担軽減に向けて知恵を絞ることが重要である。</p> <p>【ヤングケアラー支援及び子供の育ち支援センター（いくしあ）の総合的な支援体制について】</p> <p>[概要]</p>
-----------------------	------------	---

	<p>尼崎市は、兵庫県で人口第2位の都市。2021年現在の推計人口は約74万人。</p> <p>兵庫県の南部に位置し、大阪湾に面している。大阪市と神戸市の間に位置しており、交通の要所としての役割も果たす。</p> <p>尼崎市は古くから交通の要衝として栄えており、商業や工業の発展が進んだ。また、近世には尼崎城が築かれ、城下町としての機能も果たす。</p> <p>工業都市として知られており、主な産業は製造業。特に、鉄鋼業や機械工業が盛ん。また、商業も発展しており、尼崎市には大型ショッピングモールや商業施設が多数存在し、商業の中心としての役割も担っている。</p> <p>また交通の便が良い地域であり、JR尼崎駅や阪神尼崎駅を中心に、鉄道路線が交差し、大阪市内や神戸市などへのアクセスが容易である。また、尼崎市には阪神高速道路や国道2号線などの主要道路が通っており、車でもアクセスしやすい市である。</p> <p>尼崎市のヤングケアラー支援事業には2つあり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーピアサポート事業。ヤングケアラー同士が自らの悩みや不安を共有し、語り合う機会や悩み相談が出来る居場所を提供する事業を民間に委託して月1回以上開催している。 ・ヤングケアラー等世帯訪問支援事業。家事、育児に困っている世帯に対し、専門の訪問支援員を派遣し、必要な支援を行う。 <p>一方、子どもの育ち支援センター「いくしあ」（育舎）と、北部、南部保健福祉センターで家庭児童相談を受けており、ヤングケアラーに限らず、児童ケースワーカーの関わりが必要な世帯があれば、関係各課から児童ケースワーカーに連絡してもらいお互いに協力し合いながら支援にあたっている。</p> <p>アウトリーチ支援やオーダーメイド支援を行い家族交流会、当事者活動の提供なども行っている。</p> <p>【考察】</p> <p>将来世代への支援の厚さに力を入れている事は羨ましいことである。反面、利用されている方が限定的なところが課題に感じた。令和8年の市独自の児童相談所開設に向けて準備が進められており、今まで認知していなかったが、支援が必要な家庭が見えてくることを願っているとのことである。</p> <p>また尼崎市は社会的背景から生活保護受給率が高く、したがってヤングケアラーの人数も一定の規模でいる。不登校児童数も全国平均と比較すると多い実情がある。そのため尼崎市においては、平成30年度には事前研修会やシンポジウムなどを行っており、全国に先駆けてのヤングケアラー支援に臨んでいるとのことである。しかし、実態を見てみると、それに見合った事業の利用者数とはなっていない点を感じられた。</p> <p>「ヤングケアラーピアサポート事業」と「ヤングケアラー等世帯訪問支援事業」は、車の両輪を成しているのではと感じる。</p> <p>すなわち「ヤングケアラーピアサポート事業」は、ソフト事業であり「ヤングケアラー等世帯訪問支援事業」は、ハード事業であること。その双方の支援を並行して行ないながら、ヤングケアラーに該当する若者を温かく見守り、個人情報の保護を遵守したうえでキメ細かい支援を行なっている。</p> <p>ヤングケアラー支援で注意すべきこと(難しさ)について触れていた。すなわち、ヤングケアラー自身は「自分がヤングケアラーであること」を自覚しないままに日常生活を「当たり前のこと」として送っていることがほとんどであることから、関係者(大人)の</p>
--	---

	<p>無遠慮な介入が 子どもや世帯のスティグマ(劣等感)を呼び起こすことにもなってしまうことがあるとのこと。したがって、事業展開については慎重に進めなければならないとのことでした。</p> <p>この「ヤングケアラー支援」については、長野市においても具体的に取り組むべき課題となるはずである。尼崎市の先進事例を学び、その知見を役立ててゆくべきことであると実感した。</p> <p>また、説明の中で尼崎市に於いても令和8年度開設予定で児童相談所の開設準備が進んでいるとの事で、開設後はより総合的な弱者支援が出来ることが期待される。</p> <p>家庭支援については、それぞれの家庭で人に見られたくないなどデリケートな課題が多く、派遣される家事援助のヘルパーの方々にも守秘義務や他機関につなげるなど手腕も必要である。ヘルパーの養成もご苦労があると感じた。幸いなことに尼崎市では民間の事業所が2か所手を挙げているとお聞きした。その中には保育士の資格をお持ちの方等いるとのこと。人材の掘り起こしや研修など行う中でスキルを身に付けていただくことが望まれる。</p> <p>これは、本市にとっても必要な施策だけに、人の育成が大切と感じた。</p> <p>またヘルパー派遣は、プライバシー問題をどうするか、いくしあについては、建物をどうするか、児相の考え方をどうするか、財政と職員問題など、課題は大きい。</p> <p>関西圏では今後、児童相談所を基礎自治体の市で持つことが促進されていくようで、より迅速に支援が出来る体制を構築する動きがあるのは素晴らしいと感じるが、反面それだけ厳しい現状があるということかとも思った。</p> <p>長野市においては、児童ケースワーカーをおくところから、まず始めるべきだろうと思う。</p> <p>一方、児童相談所は長野県の所管ながら長野市内に設置されているところだが、県との連携をより強めることが求められるとともに、市独自の児童相談所の設置について、課題を整理し、検討に着手していくことも必要であろう。</p> <p>児童相談所としては、教職員によるセクハラ、空き教室の問題、性的被害を児童が受けている現状など学校教育現場での児童の保護へも対応すべきことである。</p>
--	---